A33 川崎市の雨水枡に発生する蚊とその駆除試験

佐藤 英毅 (川崎市衛生研究所)

Treatment tests of same insecticides against mosquito larvae at street drainages in Kawasaki City
Sato, H.

都市環境では雨水枡が蚊の発生源として重要と考えられている。本市の市街区の雨水枡に発生する蚊は主としてアカイエカ (含: チカイエカ), ヒトスジシマカおよびトラフカクイカである。郊外の霊園などでは, 前述の他にヤマトヤブカやヤマトクシヒゲカも発生している。ここでは, ライトトラップで捕獲した蚊成虫および雨水枡の蚊幼虫発生状況の調査結果と公園地域で行った殺虫剤による駆除試験の成績を報告する。使用した薬剤は市販の製剤でメフェス水和剤, ハイカ プシン水和剤, フェンチオン粒剤, デミリン水和剤, ピリプロキシヘンの粒剤と発泡剤である。雨水枡内の水中濃度が概ね 1, 2 および 4 ppm になるように処理した。駆除成績は殺虫剤の処理濃度より雨水枡内の塵や土砂などの状況により大きく左右されると考えられた。

A34 都市域における蚊幼虫発生状況○吉田 政弘¹, 山下 敏夫¹, 小林 睦生² (¹いきもの研究社, ²国立感染研)Distribution and seasonal occurrence of mosquito larvae in OSAKA
Yoshida, M., Yamashita, T., Kobayashi, M.

木造民家, ビル, 学校, 公園等が混在する都市域の半径 500m 内の公共雨水枡, 古タイヤ数, 有水数の分布状況, 蚊幼虫個体数を調査した。古タイヤでは全数, 雨水枡では 31 箇所の定点で 2004 年 4 月より 2005 年 2 月にかけて定期的に蚊幼虫の発生状況を調査した。半径 500m 内の雨水枡数は 790 でその有水率は 50% (2004.5 調査時点) であり, 古タイヤ数は調査時ごとに変わり 240~348 本あり, 有水率は盛夏 (8 月) に 9% で最も低く, 全平均で 33% であった。定点雨水枡での蚊幼虫発生枡率 (幼虫発生枡数/調査全枡数) は, 全平均で 40.5% であり, 古タイヤでは 7.3% であった。蚊幼虫発生種は雨水枡ではアカイエカ, ヒトスジシマカおよびトウゴウヤブカの三種で採集個体数 (蛹を含む) はそれぞれ 85.6, 14.3, 0.2% であった。古タイヤでの採集種は雨水枡と同様の三種であったが, 採集個体数 (蛹を含む) はそれぞれ 3, 53.4, 43.6% であった。両調査対象での季節的な消長等の詳細を報告する。